

水産試験場研究評価委員会 評価のとりまとめと機関の対応方針

(中間評価)

事業名 (課題名)	冷水魚増養殖技術開発試験				研究 期間	平成 23 年度～ (評価期間:令和 2～6 年度)		予算 区分	県費
研究の取扱基準 A. 計画を超えて順調 (このまま研究を継続) B. ほぼ計画通り (このまま研究を継続) C. 研究方法を修正する必要あり D. 研究を中止する必要あり									
委員名	1	2	3	4	5	6		まとめ	
評価結果	B	B	B	B	B	B		B	
主な意見									
①研究目標 ・地域ブランド魚の安定生産技術は漁業経営だけでなく食料自給の面からも重要な研究テーマであり、目標設定は妥当である。 ・絹姫サーモンの生産安定は喫緊の課題であり、目標設定は妥当。 ・養殖現場の課題解決に向けた目標設定となっている。 ・業界からの要望に基づいた研究であり、妥当である。 ・絹姫サーモンは、愛知県が作出した品種であり、養殖業者の収益増大に向けた目標は、妥当である。 ②研究手法の妥当性 ・養殖場での疾病発生調査では、既発生と未発生を同時期に並行して実施して比較した方が、へい死の根拠をより補強できたと考えられる。 ・生産不調のポイントを2つに絞り、対策に取り組む手法は適切。 ・発眼卵の安定生産では計画的に採精する手法を確立することができた。 ・業界との連携による現場の課題解決が図られており、妥当である。 ・現場の状況をしっかり把握し、現場での対策を研究することは、生産性を向上させる上で重要である。 ③計画の進捗状況 ・白点病感染に対する特性把握や成熟コントロールに関する知見を得ており、目標に向けて予定通り進捗している。 ・原因が絞り込めており、研究方法も適切。 ・概ね予定通りに計画を進めた。 ・課題に対する原因が明らかとなり、計画的に進捗している。 ・発眼卵の安定生産は、活力あるアマゴ精子を利用することで、向上が期待できる。当歳魚の夏季の歩留まり向上には、水温か水源の菌なのか原因究明が必要。 ④研究の成果と発信 ・県内関係者に向けた公表ができており、これまでの研究成果も含めて概ね妥当である。 ・成果は得られており、現場や広報誌での報告も行われている。 ・論文発表も視野に入れて研究を進めてほしい。 ・養殖業者の研究会、水試ニュースなどで成果が発信されている。 ・発眼卵の安定生産の技術開発について結果をもっとしっかり発信すれば、研究成果としてアピールできる。 ⑤今後の計画の妥当性 ・養殖の将来像を明確にした上でのへい死対策戦略のための研究を示しても良いのではないかな。次のステップとしてへい死対策と発眼卵の安定生産の具体化が期待される。 ・成果は得られており、今後は、原因の特定と対策の効果検証の積み重ねが必要である。 ・夏季の疾病対策は絹姫サーモン生産量増大のためのポイントなので、データ収集と対策の検討を引き続き進めてほしい。 ・今後数年のデータ収集により、技術の安定化が図られる見込み。									

- ・生産現場を重視している。

⑥総合評価（研究の取扱）

- ・夏季へい死の原因把握と耐病性試験、偽雄アマゴの成熟コントロール試験など、安定生産に向けた土台となる研究成果を得ている。絹姫サーモンの増養殖の将来像（生産力や市場規模）と本研究成果は相互作用する関係にあると思われるが、良いビジョンを示せるような研究の発展を期待したい。
- ・資源の減少を来さないよう、へい死の原因となっている病原菌の特性を調べ、対策（水温調整や薬剤開発など）について試験・研究し、歩留まりの高い養殖技術を確立することにより、河川漁協の経営安定に寄与することを期待する。
- ・絹姫サーモンのブランドは既に定着しており、近年の生産不調は憂慮すべき課題である。原因の特定と対処法の普及を急いで行う必要がある。今後の成果に期待したい。
- ・夏季の当歳絹姫サーモンの斃死原因を解明し、対策を提案することができた。養殖には疾病対策は必須の技術であるため、実用性があり、さらに効果的な対策を探してほしい。
- ・業界からの要望に基づき、需要が拡大している絹姫サーモン生産の安定化に貢献できる技術開発となっており、原因の究明から対策案の検討まで計画どおり進捗している。今後も継続して技術開発を行うことにより、生産性の向上が期待できる。
- ・発眼卵の生産において安定・効率化に寄与する技術は高く評価できる。当歳魚の夏季の歩留まり向上では、水源の病原菌の有無を明らかにし、白点病やカラムナリス症の発生を抑制するための技術を更に深める必要がある。

機関としての対応方針

総合評価は「B」評価であり、ほぼ計画通りと判断する。

本事業では絹姫サーモンの安定生産のために、当歳魚へい死原因の調査と原因疾病の防除法を検討した。また、絹姫サーモン発眼卵の生産性向上のために、雄親である偽雄アマゴの成熟コントロール試験を行った。

委員会の意見を受けて、今後の事業では白点病とカラムナリス症が未発生であった養殖場での疾病発生状況を調査していく。また、白点病の感染試験を行い、疾病の発生を抑制できる養殖方法を引き続き検討し、魚病被害の軽減策を現場へ普及していく。全国的なサーモン需要の高まりを受けて業界の要望が強い絹姫サーモンであるため、今後も継続して疫病対策の技術開発を進めていく。